

- 1 弥生時代に大陸から金属器とともに伝わり、それまでの採集中心の生活から定住型の社会へ変化させる大きな要因となった技術を何という？
- 2 稲作が普及して富や権力に差が生まれた弥生時代、地域をまとめる存在として現れたまとまりを何という？
- 3 57年に奴国の使者が訪れ、金印を授けたとされる後漢の皇帝を何という？
- 4 銅鐸が主な役割として使われた、豊作を祈るなどの行事を何という？
- 5 1世紀に日本の奴国の王から使者が送られた際、返礼として金印を授けた後漢の皇帝は誰？
- 6 古代中国の記録などを通じて、当時の日本（倭）の状況を知ることができる資料のうち、出来事や制度を記録した書物を何という？
- 7 高床倉庫の柱に取り付けられた、ネズミが倉庫の中に侵入するのを防ぐための工夫を何という？
- 8 1世紀、後漢の時代に倭の奴国の王が使節を送った際に、その権威を認めて印を授けた皇帝を何という？
- 9 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？
- 10 弥生時代に祭礼の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣鐘状の青銅器を何という？
- 11 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見された、福岡県にある場所はどこ？
- 12 3世紀頃、邪馬台国を治め、中国の魏に使者を送ったとされる女王は誰？
- 13 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王に贈られたことを示す重要な遺物を何という？
- 14 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？
- 15 1世紀に中国へ使いを送ったことが歴史書に記された、いまの福岡県あたりにあったとされる倭の国を何という？
- 16 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？
- 17 弥生時代に導入された金属器のうち、硬度が高く、刃先などの実用的な道具として生産力の向上に貢献したものを何という？
- 18 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？
- 19 奴国からの使節の来訪や金印の授与についての記述がある、中国の歴史書を何という？
- 20 弥生時代に大陸から伝わり、実用品ではなく主に祭祀の道具として使われた青銅器のうち、釣鐘のような形をしたものを何という？



① 書く
鉛筆で答えを書く

② 隠して言う
赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

③ 印を付ける
言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	稲作 が定着したことで、人々は安定した食料を得られるようになり、収穫の時期に合わせて同じ場所に住み続ける定住生活が始まりました。		稲作	☐
2	この争いに勝った有力者が周辺の集落を統合し、「 クニ 」と呼ばれる政治的なまとまりを作りました。		クニ	☐
3	光武帝 は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。		光武帝	☐
4	銅鐸は、このような 祭り の場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。		祭り	☐
5	当時の日本の「奴国」の王が、後漢の都に使者を派遣しました。それに対して、皇帝である 光武帝 は、親交のしるしとして「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。		光武帝	☐
6	『後漢書』や『魏志倭人伝（三国志）』などが代表的な 歴史書 です。		歴史書	☐
7	柱の途中に板状の出っ張り（ ネズミ返し ）を取り付けることで、地面から登ってくるネズミがそれ以上進めないように工夫されていました。		ネズミ返し	☐
8	『後漢書』東夷伝によれば、57年に倭の奴国の使者が後漢の 光武帝 に謁見し、朝貢しました。		光武帝	☐
9	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に 祭祀 の場で神聖な道具として使われました。		祭祀	☐
10	銅鐸 は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。		銅鐸	☐
11	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の 志賀島 で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。		志賀島	☐
12	卑弥呼 は「鬼道」と呼ばれる呪術を用いて人々を統治した女王です。		卑弥呼	☐
13	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。		金印	☐
14	金属器 には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。		金属器	☐
15			奴国	☐
16	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である 後漢 の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。		後漢	☐
17	鉄器 は主に農具の刃先や、武器としての剣や矛などに加工されました。		鉄器	☐
18	ローマ帝国 は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。		ローマ帝国	☐
19	『 後漢書 』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。		後漢書	☐
20	銅鐸 は主に近畿地方を中心に多く出土しており、祭祀の道具として用いられました。		銅鐸	☐

言えなかった用語ノート